

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和六年三月一日発行 第二二〇号

檀信徒の皆様、こんにちは。二月十日の朝勤でウグイスの初鳴きを聞きました。いよいよ春到来です。

今から八年前の平成二十八年四月十六日深夜、これまでに経験したことのない揺れに飛び起きました。庫裡の壁には多数のひびが入り、続く余震を怖れ、その晩は家族そろって車中泊となりました。そして令和四年にあった震度5強の地震では、山門が大きく傾き、その瓦の多くが落ちました。この時の庫裡のきしむ音、歪みは熊本地震の時以上で、度重なる地震に限界を感じました。

また、四年前に発生したコロナにより私たちの生活習慣は大きく変わることを余儀なくされました。密室での集まりを避け、本堂での法事などが増え、皆さんがお寺に来て下さるのは有難いのですが、お寺の耐震性や段差和式トイレの不便さ、待合室の不備など多くの問題に向き合う必要性も出てきました。コロナ禍で行先の不透明な時ではありましたが、総代様に法要会館並びに庫裡の建て替えを提案したのは令和三年の年末だったように記憶をしています。

それから約三年間、総代様にはご多忙の中度々お集まりいただき、総代会議を重ね、檀信徒の皆様には二度のお手紙と三回の説明会

を開き、大方の同意を頂いてから今回の記念事業へと取り掛かりました。多くの方から励ましのお言葉と助言を頂き、このたび完成の目途が立ちましたことをご報告と共に御礼申し上げます。

別紙にてご案内させて頂きますが、お便りでも重ねて掲載申し上げます。

日	令和六年四月五日（金曜日）
	六日（土曜日）
	七日（日曜日）
時間	同日ともに十四時より内覧会 十五時より説明会
場所	金剛宝戒寺 法要会館

尚、今回の建築は当山開創一三〇〇年記念事業の一環ですので、落慶式は行わず、お披露目会と致します。お一人でも多くの方にご参加頂きたく思い、日時を三回設定いたしました。ご多用とは存じますが万障お繰り合わせの上ご参集ください。またご祝儀等のお心遣いはなさいませんようお願い申し上げます。二月八日の講習会ではティク・ナット・ハイン師の書籍を参考にお話をさせて頂きました。師はベトナムの禅僧です。マインドフルネスを世界に広めた第一人者として知られています。禅僧ならではの逆説的な表現や、心温まる文章には非常にひかれます。本書の中で師は苦しみの向き合い方について次のように

語っていますので、その一節をご紹介します。

「あなたの中にある苦しみは強いかもしれませんが。しかし苦しみがなくなるまで待たないと幸せになれないのではありません。心に苦しみがあっても美しい夕日、子供の笑顔、たくさんのお花や木々など、人生の多くの素晴らしいことを楽しむことができます。

苦しみにとらわれないでください。苦しみがなければ成長はできません。苦しみがなければ、安らぎも喜びも得ることはできません。ブツダが苦しみを聖なる真実と呼んだのは苦しみが解脱の道を指し示してくれるからです。」

私たちは、悩みごとが生じてくると、その一面にしか目が行きにくくなってしまいがちです。大げさな話、世界で一番の不幸を背負っているかの様な錯覚を起こしてしまいます。そんな時、身近にある優しさに気づき、触れることが出来たらどんなにか癒されることでしょう。仏教は子供にでも分かる当たり前を説いています。忘れずに心に留めておきたい一節だと思えました。

日時	四月八日（月曜日）十時三十分より
場所	金剛宝戒寺 法要会館
演題	四諦八正道と悟りの境地について

四月八日はお釈迦様のお誕生日です。お時間が通常とことなります。ご注意ください。